

# 日本環境教育学会第13回大会プログラム

青葉若葉の美しい新緑の五月の仙台において、第13回日本環境教育学会全国大会を開催いたします。本大会は、「**新世纪型環境教育に向けて**」という大会テーマのもとに、東北地方全域の会員のみなさまのご協力を頂いて、心をこめて企画いたしました。研究発表の他、講演会や体験実習など、さまざま新企画を用意しておりますので、多数のご参加を心からお待ちしております。当日の参加受付も可能です。

主 催	日本環境教育学会
後 援	文部科学省、環境省、農林水産省、東北経済産業局、国土交通省東北地方局、宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、日本原生動物学会、日本水環境学会、仙台マルチメディア研究会、省エネルギーセンター、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、河北新報社、NHK 仙台放送局、東北放送、仙台放送、宮城テレビ放送（以上、予定を含む）
実 施 期 日	平成14年5月24日(金) 5月25日(土) 5月26日(日)
場 所	宮城教育大学および市内会場
参 加 費	一般 5,000円 学生 3,500円 (講演要旨集代 2,500円を含む)
参 加 予 定 者	全国の大学・小中高校現職教員、環境教育関連機関、NGO、NPO、地方自治体関係者、一般市民など

## 日 程 表

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
2 4 金	エクスカーション等									関連学会共催セミナー		
				環境計測実習講座					セミナー			
2 5 土	受付	一般講演		基調講演	シンポジウム		総会			懇親会		
2 6 日		一般講演	ポスター	一般講演		環境計測体験講座	関連小集会					

## 企画事業 (基調講演・シンポジウムを除き、いずれも学会大会参加費支払いを条件とします)

<5月24日(金)>

### 環境教育学会巡検いぐねの学校(エクスカーション)

「杜の都仙台を探る」環境教育の素材としての干潟・いぐねを考える

日時：5月24日(金) 9:00～16:30

当日は、9時にJR仙台駅中央2階改札口前の伊達政宗像前に集合。途中から参加の方は、12:00JR名取駅に集合。

対象：一般市民 経費 2,000円程度(大会参加費には含まれておりません)

行程：仙台駅集合 蒲生の干潟 仙台平野いぐね(屋敷林) いぐねの学校(豆腐作り、草木染め) 仙台平野のいぐね(いぐねについてのミニシンポ：コーディネータ；結城登美雄)(希望者のみ、サッポロビール園で懇親会)

問い合わせ：代表世話人 小金沢孝昭(宮城教育大学) TEL022-214-3386 E-mail: [t-koga@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:t-koga@staff.miyakyo-u.ac.jp)

### 関連学会共催セミナー

水環境の科学「総合的学習の実践のために」

共催学会：日本原生動物学会、日本水環境学会

対象：小・中学校の先生および市民一般 入場無料

日 時：5月24日(金) 16:30～19:00

場 所：宮城教育大学2号館2階220番教室

司会 江成敬次郎(東北工業大学)

石井誠治 「簡易水質分析のおもしろさと水環境評価の難しさ」

山田一裕 「水生生物による水の浄化能力と水辺環境とのつながり」

見上一幸 「環境教育の素材としての原生生物の可能性」

盛下 勇 「水質指標としての原生動物の位置づけ」

### 環境計測実習講座

日時：5月24日(金) 13:00～16:15 場所：1.村松研究室(予定) 2.3.情報処理センター(予定)

当日は、13:00に宮城教育大学2号館入り口にお集まりください。

受講者は、申し込み先着順とし、定員になり次第締めきります。

1. 水質分析の方法（村松 隆・猿渡英之・石井誠治）対象：現職教員および市民一般 20 名程度、無料
2. 衛星情報の活用方法（佐藤清忠） 対象：現職教員および市民一般 20 名程度、無料
3. インターネットを使った生きもの調査（岩渕成紀・鵜川義弘）対象：現職教員および市民一般 20 名程度、無料

## <5月25日(土)>

### 研究発表(一般講演)

口頭発表(1題15分)またはポスター発表とする。新しい試みとしていくつかの課題についてオーバービュー(概要)をお願いすることにいたしました。

日時:5月25日(土)9:30~12:15 場所:宮城教育大学2号館 A~F会場

### 展示

環境活動や商品の展示を行います。

日時:5月25日(土)9:30~

場所:宮城教育大学2号館222・225番教室

### 資料配布コーナー

環境教育学会の団体会員の紹介コーナー・資料配布コーナー(無料)をつくりますので、事前または当日事務局にお申し出下さい。

日時:5月25日(土)9:30~

場所:宮城教育大学2号館221番教室(L会場)

### 基調講演

「アジアの自然観と農業」(仮題) 講演者: Nial Moores(韓国湿地連盟)

日時:5月25日(土)13:00~14:00 場所:宮城教育大学講堂

### シンポジウム

新世紀型環境教育に向けて「環境保全型農業と環境学習」 司会進行:岩渕成紀

パネリスト:吳地正行(日本雁を保護する会会長) 丸林良彰(NHK教育番組「おこめ」担当ディレクター)

寺島一夫(宮城県山元町役場) Nial Moores(韓国湿地連盟)、吉成信夫(こども環境研究所代表)

テレビ会議サテライト:佐渡新穂村(佐渡トキ保護センター他)

日時:5月25日(土)14:00~16:15 場所:宮城教育大学講堂

### 総会

日時:5月25日(土)16:30~17:15

場所:宮城教育大学講堂

### 懇親会

日時:5月25日(土)18:30~20:00 場所:仙台ガーデンパレス(12頁参照)

会費:一般6,000円 学生4,000円(当日参加希望の方、受付でお支払い下さい)

満員になり次第締め切らせていただきます。

## <5月26日(日)>

### 研究発表(一般講演)

口頭発表(1題15分)またはポスター発表とする。

日時:5月26日(日)9:30~15:00

場所:宮城教育大学2号館A~F会場

### 展示(5月25日と同様)

日時:5月26日(日)9:30~14:30

場所:宮城教育大学2号館222・225番教室

### 資料配付コーナー(5月25日と同様)

日時:5月26日(日)9:30~14:30

場所:宮城教育大学2号館221番教室(L会場)

### 環境計測体験講座 「森の環境を測る」

環境教育の素材・フィールドとしての森林を考える -森林での実践を通じて-

多くの生き物がかかわりあって生息している森林生態系は、大気や水の流れを通じて地域や地球全体の環境と密接なつながりをもっています。また私たちの生活や社会をささえる自然資源として欠かせない存在です。このような広がりを持つ森林は、環境教育の目標[気付くー知るー考えるー行動する]を達成するための素材・フィールドとして大きな可能性を持っています。「でも、とっつきにくい、どうしたらいいのか。」という現実的な問題を乗り越えるために、プログラムの実践をはさみながらいっしょに考えます。

日 時:5月26日(日)13:00~16:00(雨天決行)

場 所:青葉の森(宮城教育大に集合し、会場に隣接する森に歩いて入ります。)

講 師:大石 康彦(森林総合研究所) 比屋根 哲(岩手大学農学部)

対 象:学会員、教師、一般市民等(30名程度)

内 容:[気付くー知るー考えるー行動する]の流れに沿った活動プログラムを体験し、森林での活動プログラムからの展開や実践に当たっての課題について意見交換します。

参 加 費:無料

参加希望者は事前(満員になり次第締め切れます)に事務局までお申し出下さい。

## 関連小集会（10頁参照）

アジア太平洋地域における環境教育戦略を考える～IGES環境教育プロジェクトの活動を通して～

代表者 中端章博

環境教育推進のための教員研修システムとプログラム開発-関連地域におけるパートナーシップの構築を踏まえて-

代表者 藤岡達也

環境教育をめぐる国際交流

代表者 小澤紀美子

食と農をめぐる環境教育

代表者 原田智代

大学における環境教育の現段階

代表者 比屋根 哲

動物園環境教育会議「動物園・水族館での環境教育の可能性を考える(3)～野生動物保全施設に向けた連携づくり～」

代表者 高橋宏之

ネイチャーセンターのワーキングネット

代表者 小林 毅

新しい教育像を求めて-批判的環境教育の可能性

代表者 塩川哲雄

幼児期における環境教育

代表者 近藤正樹

水環境教育指導者のための本づくり-どんな本が欲しいですか-

代表者 小川かほる

「総合的な学習の時間」と体験的活動-教育改革と学校環境教育の可能性-

代表者 田中敏久

ミニシンポジウム

代表者 山口 洋

## 大会に参加される皆様へ

### 1. 大会受付

- ・ 5月24日（金）は受付をいたしません。エクスカーション、実習講座、セミナーにお越しの方は会場に直接お越しください。
- ・ 大会受付は5月25日（土）、26日（日）両日の9時より、2号館1階ホールで行います。参加者は受付で名札と予稿集をお受けとりください。
- ・ 参加費未納の方は当日受付扱いとなります。一般5,000円、学生3,500円。

### 2. 昼食

- ・ 会期中の5月24日～26日は大学構内の生協食堂が開店します。ぜひご利用ください。ただし土曜・日曜の営業時間は11:30～13:30となります。なお、大学近隣には食堂・コンビニ等ございませんのであらかじめご了承ください。

### 3. その他

- ・ 参加者の呼び出しなどは、緊急の場合を除きいたしません。大会受付のそばに掲示板を用意しますので、掲示にご注意ください。
- ・ 車で来られた方のために、駐車場を用意いたしますが、キャンパス内のため交通安全に努めるとともに、会場係の指示に従って下さい。また、万一、満車の場合は、仙台市街に駐車していただき、バスで会場まで来ることをお願いする場合があります。

## 発表される方へ

### 1. 口頭発表

口頭発表の持ち時間は15分（発表時間12分、質疑応答3分）です。次のように時間経過をお知らせします。

第1鈴 10分（予鈴） 第2鈴 12分（講演終了） 第3鈴 14分30秒（討論終了）

### 2. 機器の使用について

発表の際に会場で使用可能な機器はOHPと液晶プロジェクターのみです。プロジェクターに接続する出力機器（ノートパソコンなど）はご持参ください。試写をご希望の方は、お早めに事務局（229番教室）までお申し出ください。

### 3. 資料について

- ・ 発表の際のプリント資料配布は、できるだけ避けてください。資料をお持ちの方は、資料室で自由配布できるようにいたしますので、事務局スタッフにお申し出ください。
- ・ 資料の必要部数はあらかじめご用意ください。大会会場でのコピーサービスは一切いたしておりません。

### 4. ポスター発表される方へ

- ・ ポスター掲示用パネルのサイズは幅90cm×高さ180cmです。参加申し込み時にご案内した大きさと異なりますので、ご注意ください。
- ・ ポスターの最上部に、発表タイトル、発表者氏名と所属を明記してください。
- ・ パネルは25日（土）の朝9:00から利用可能です。
- ・ 26日（日）の12:30～13:30を発表時間としますので、この時間はポスターの前で待機してください。
- ・ ポスターは26日（日）の14時30分までに撤去してください。この時間までに撤去されなかったポスターは、大会実行委員会で撤去・処分いたします。

### 5. 座長をお引き受けいただいた方へ

- ・ 担当していただくセッションの5分前までに、会場にお入りください。
- ・ 発表取り消しがあった場合、その時間を質疑応答や休憩などにあて、後続の発表の繰上げはしないでください。

### 6. 展示をされる方へ

展示方法等、事務局の指示に従って下さい。

## 一般講演プログラム

25日	<b>A会場(223室) 教育理念・教育評価</b>	<b>B会場(224室) 社会科学系</b>	<b>C会場(226室) 自然系実践</b>
9:30	<b>IA0930</b> 幼児教育者養成教科で“環境”をどう紹介しているか(その8) 近藤正樹(白梅学園短期大学)	<b>IB0930</b> 「庄内の町発見！－庄内の町はすてきな町－」 牧 宏(名古屋市立庄内小学校)	<b>IC0930</b> 乳幼児期における環境教育の研究－幼児と自然のかかわりにおける検討－ 大澤 力(東京家政大学)
9:45	<b>IA0945</b> 保育者養成短期大学の教育課程における環境教育の実施実態について 井上美智子(近畿福祉大学)・田尻由美子(精華女子短期大学)	<b>IB0945</b> こどもエコクラブ・サポーターの環境情報発信活動－住民参加の地域づくりをめざして－ 原田智代(せいわエコ・サポーターズクラブ-大阪市天王寺区-)	<b>IC0945</b> 生活科における学校ビオトープ活用のあり方－池のない学校ビオトープもある－ 植田善太郎(大阪府泉大津市立上條小学校)
10:00	<b>IA1000</b> 子どもにとっての地域環境学習の意味(1) －評価までの実験的調査をもとに－ 大谷直史(鳥取大学教育地域科学部附属教育実践総合センター)・真奏あき(鳥取湖山子どもセンターばちばち)	<b>IB1000</b> 給食管理実習から発生する生ゴミの肥料化と植物実験(その3)木炭の併用効果について 辻正博(名古屋大学)・櫻尾 一・野松治市(名古屋栄養専門学校)	<b>IC1000</b> 学校ビオトープの基礎的研究(V)共生の論理としての主体のあり方 赤尾整志(グローバル環境文化研究所)
10:15	<b>IA1015</b> 総合学習の中で行われた森林教育の教育効果の検討－盛岡市立上田小学校における森林教育の分析事例－ 小笠原花衣・比屋根哲(岩手大学農学部)・小山田久子(盛岡市立上田小学校)	<b>IB1015</b> 市民活動と連携した中学生の環境改善活動－「環境家計簿簡単ブック」の実践を通して－ 竹澤伸一(千葉県市川市立大洲中学校)	<b>IC1015</b> 学校ビオトープの活性化 藤本妙子(大阪外国语大学)
10:30	<b>IA1030</b> 異なる内容の森林体験学習が生徒の森林観に及ぼす影響(1)-事前・事後ににおける意識の比較－ 比屋根哲(山本次次・岩手大学農学部)・大石康彦(森林総合研究所東北支所)・中村文治(岩手県北上地方振興局)・上野幸子(盛岡市立下橋中学校)・和田政男(北上市立北上中学校)	<b>IB1030</b> 電磁波問題について 菊川順子(鹿児島国際大学短期大学部)	<b>IC1030</b> 校庭の野草調査から見た学校での自然環境保全の現状について 田 明男(大阪市立姫里小学校)
10:45	<b>IA1045</b> 異なる内容の森林体験学習が生徒の森林観に及ぼす影響(2)-絵を描かせるアンケート調査から－ 大石康彦(森林総合研究所東北支所)・比屋根哲(山本次次・岩手大学農学部)・中村文治(岩手県北上地方振興局)・上野幸子(盛岡市立下橋中学校)・和田政男(北上市立北上中学校)	<b>IB1045</b> カキ殻を用いた酸性雨の中和実験 高橋正昭・加藤進(三重県科振セ)・宮尻英男(三重環防研)・島洋久(ICETT)	<b>IC1045</b> 野外活動実践を通した環境教育のあり方に 関する考察－雑木林内における自然活動及び観察について－ 佐藤朝代(けやの森幼稚園)・福田直(埼玉県立狭山高等学校)
11:00	<b>IA1100</b> 屋久島環境学習ネットワーク会議－環境学習関連施設の有機的連携のために－ 柳田一郎(屋久島環境文化財団)	<b>IB1100</b> 福岡県環境教育学会の歩みと今後の課題 矢野正孝(北九州高専)・時井純子(久留米市役所)・野井英明(北九州市立大)・濱村研吾(福岡県保研研)・森本美鈴(北九州市環研科)	<b>IC1100</b> 森林の階層構造に基づく環境教育 畠山真由美・久保田正昭・山口修(兵庫教育大学大学院 総合学習系コース)
11:15	<b>IA1115</b> 北海道「道民の森・森の子くらぶ」の体験型プログラムに関する実践的な一考察 山本幹彦(NPO法人当別エコロジカルコミュニティ代表)・城後豊(北海道教育大学札幌校)	<b>IB1115</b> 環境に配慮した消費行動に関する社会心理学的検討 杉浦淳吉(愛知教育大学)	<b>IC1115</b> 宮城県が養成した森林インストラクターの活動に対する意識 高橋秀哉・比屋根哲(岩手大学農学部)
11:30	<b>IA1130</b> 環境教育・学習と合意形成(2) 社会科授業モデルの開発 水山光春(京都教育大学)・田中曜次(京都教育大学附属桃山中学校)	<b>IB1130</b> 赤ちゃんのおむつ使用と母親の環境意識－保育所の調査から－ 石坂孝喜(大塚保育園)	<b>IC1130</b> 環境教育実践としてのネイチャーゲームの成立と発展 降旗信一(東京農工大学大学院環境教育学・日本ネイチャーゲーム協会)
11:45	<b>IA1145</b> 高等学校公民科教科書における環境倫理に関する記述について 岩井省一(河合塾)	<b>IB1145</b> 東北の農地環境と環境保全型農業 西館和則(NPO法人・環境保全米ネットワーク)・小金沢孝昭(宮城教育大学)	<b>IC1145</b> ビオトープから地域学習への発展 市川 寛(長野県飯山市立飯山小学校・前駒ヶ根市立赤穂小学校)
12:00	<b>IA1200</b> 科学を扱う環境教育の問題点と教育プログラムの提案 伊藤通子・丁子哲治・岩井正雄(富山工業高等専門学校)	<b>IB1200</b> おからの有効利用に関する研究と市民教育活動 松本仁(徳島文理大学)・清水祥子・市野富士子(長野女子短期大学)・磯部明彦(群馬県立女子大学)	<b>オーバービュー</b> 近年の学校ビオトープ 田邊龍太((財)日本生態系協会)
12:15			

## 一般講演プログラム

25日	D会場(227室) 総合学習	E会場(231室) 教育理念・教育評価	F会場(232室) 教材開発
9:30	<b>1D0930</b> 川と人びとのくらし ~真美ヶ丘東小学校4年(2組)の実践報告~ 本庄 真(香芝市立真美ヶ丘東小学校)	<b>1E0930</b> 「人生地理学」と環境教育ー「環境教育宣言」・「城北の森」・社会貢献活動ー 飯尾美行(静岡県立浜松城北工業高等学校)	<b>1F0930</b> 土壤学習を通して環境教育を考える 福田 直(埼玉県立狭山高等学校)
9:45	<b>1D0945</b> 総合的な学校校庭の改善に関する事例報告 仙田 考(英国レディング大学大学院)	<b>1E0945</b> 環境教育技法の効果に関する社会心理学的研究 大竹庫一(愛知県立岡崎商業高等学校)	<b>1F0945</b> 体系的な土壤の環境教育に関する研究ー第5報 土壤教育教材の開発(1)土壤観察ガイドブックの作成ー 田村重司(筑波大学応用生物化学系)・深野基嗣(筑波大学環境科学研究所)・東照雄(筑波大学応用生物化学系)
10:00	<b>1D1000</b> 都市部の小学校における環境教育~セカンドスクールを活用した総合学習のケーススタディ~ 田中純江(東京都武蔵野市立第五小学校)	<b>1E1000</b> 環境教育研修の企画・立案における留意点と共に認識 樋口利彦(東京学芸大学)	<b>1F1000</b> 環境教育教材としての砂漠化問題 ソドスチン(東北大学大学院)・小金沢孝昭(宮城教育大学)
10:15	<b>1D1015</b> 「総合的な学習の時間」における水環境を中心とした環境教育の実践的研究 佐々木 勉(宮城県鶴沢町立鶴沢中学校)	<b>1E1015</b> 教育現場へのペットボトルリユース装置の導入と環境教育への効果 脇 誠治(群馬県立医療短期大学)	<b>1F1015</b> 育てて食する環境教育ー「チャレンジ!そばづくり」の実践よりー 小坂靖尚(秋田県増田町立増田小学校)
10:30	<b>1D1030</b> 神奈川県内公立小中学校における環境学習の実態調査結果 井出泰斗・森さつき・松倉芳美(慶應義塾大学大学院)・小寺昭彦・渡辺敦(特定非営利活動法人かながわ環境教育研究会)	<b>1E1030</b> 京都教育大学の構内で発生するゴミの実態とゴミに対する学生の意識 岡村洋平・土屋英男(京都教育大学)	<b>1F1030</b> 三保半島に漂着するミズウオの環境学習への利用 伊藤芳英・西源二郎・久保田正(東海大学海洋科学博物館)
10:45	<b>1D1045</b> 「学校を教材とした総合的な学習の試み」ー パッシブなエネルギーを利用した学校の探検ワークショップー 本多和恵(財ふくしま建築住宅センター)・松井壽則(日本大学工学部建築学科)	<b>1E1045</b> 酪農教育と環境教育の相関に関する一考察~キープ協会の活動を一例として~ 増田直広(財団法人キープ協会)	<b>1F1045</b> 生物の保護活動を通した環境教育 森 幸一(滋賀県甲南中学校)
11:00	<b>1D1100</b> 未来のまちづくりを用いた総合的な学習の可能性 東長町小学校における副都心プロジェクトとNPO・行政・企業との連携 桙松芳枝(東北緑化環境保全)・亀崎英治(北六番丁小)・佐藤慎也(東北文化学園大学)	<b>1E1100</b> 環境学習拠点における学習プログラムの評価手法に関する基礎的研究ー三重県環境学習情報センターでの連続型環境学習講座を事例にー <sup>1</sup> 小川宏樹・河北裕喜(三重大学大学院)	<b>1F1100</b> 生態系の運命と法則を学ぶ教材ーマイクロビオトープの検討ー 田中邦明・鈴木亞由美(北海道教育大学函館校)
11:15	<b>1D1115</b> まちづくり運動における子どもへの環境教育ー奈良まちづくりセンター「『遊』文庫」の活動を中心にー 高野由美子(日本女子大学)	<b>1E1115</b> 環境の問題と環境問題 原 宏(国立保健医療科学院 生活環境部)	<b>1F1115</b> 特定地域に特化した環境教育プログラム集「ティーチャーズガイド」ー沖縄石垣島のサンゴ礁保全学習をテーマにした事例ー 古瀬浩史(自然教育研究センター)・高橋啓介(環境省石垣自然保護官事務所)
11:30	<b>1D1130</b> 「活動提案型」の新しい環境副読本の提案 渡辺敦・小寺昭彦(特定非営利活動法人かながわ環境教育研究会)・古田ゆかり(ことば工房)他	<b>1E1130</b> 環境教育の縦糸と横糸をどうつむぐかー野生動物問題解決に向けた実践の事例から~ 陸 斎(長野県自然保護研究所)	<b>1F1130</b> SCPブロックを用いた交通環境教育(1)ー教材開発ー <sup>1</sup> 松村暢彦(大阪大学大学院工学研究科)・松井克行(西淀川高等学校)・片岡法子((財)公害地域再生センター)
11:45	<b>1D1145</b> プロジェクトY(柳生)~柳生小バーチャルカンパニー~ 清水康弘(東北経済産業局)	<b>1E1145</b> 持続可能な社会のための環境教育ー生徒の責任ある環境行動を導く(学習の成立に向けてー 岩本泰(東京学芸大学大学院)・小澤紀美子(東京学芸大学)	<b>1F1145</b> SCPブロックを用いた交通環境教育(2)ー大気汚染公害についての授業実践報告ー 松井克行(大阪府立西淀川高)・松村暢彦(大阪大学大学院工学研究科)・片岡法子((財)公害地域再生センター)(あおぞら財団))
12:00	<b>オーバービュー</b> 総合的な学習の時間と環境学習 鳩貝太郎(国立教育政策研究所)	<b>1E1200</b> 持続可能(性)教育 原子栄一郎(東京学芸大学附属環境教育実践施設)	<b>1F1200</b> 河川流域の「お宝マップづくり」を通した水環境学習 江成敬次郎(東北工業大学、仙台リバーズネット・梅田川)
12:15			

## 一般講演プログラム

26日	A会場(223室) 教育理念・教育評価	B会場(224室) 社会科学系	C会場(226室) 自然系実践
9:00	<b>ZA0900</b> 「酸性雨」を用いた理科教育での環境教育－アンケート調査と教科書の検討－ 新貝弥生・二宮修治(東京学芸大学)・原宏(国立公衆衛生院)	<b>2B0900</b> 自治体の環境学習リーダー育成 100時間 講座の学習成果～大阪市、河内長野市での取り組みから見えるもの～ 岡 靖敏・岩川憲理(グローバル環境文化研究所GEC)	<b>2C0900</b> 湿地生態系と環境教育 朱雀英八郎(愛知自然保護協会ネイチャークラブ)・成田美幸(野鳥の会自然保護協会)
9:15	<b>ZA0915</b> 環境教育における体験学習の構造化に関する試論 井村礼恵(多摩川源流研究所・東京農工大学大学院)	<b>2B0915</b> 私たちから生まれた市民大学講座～協働作業から私たちの美しいふるさとへ～ 樋口麻美・渡辺文郁・下羽友衛(東京国際大学国際関係学部)	<b>2C0915</b> ジャンボタニシについての調査報告II－栄養専門学校の授業での試み－ 辻 正博(名古屋大学)・梶尾 一(名古屋栄養専門学校)
9:30	<b>ZA0930</b> 自然的・社会的・文化的環境の一体化による主体的環境観の育成(その17)－生活科を中心とした「町探検」学習の実践を通して－ 中島美恵子(富山県高岡市立定塚小学校)	<b>2B0930</b> 石川県まちづくり大好き人間養成作戦事業の展開と課題 陣内雄次(宇都宮大学)	<b>2C0930</b> 水中微小生物による水田の酸素放出と環境教育 加藤涼子(宮城教育大学)・片山舒康(東京学芸大学)・見上一幸(宮城教育大学環境教育実践研究センター)
9:45	<b>ZA0945</b> 参加体験型環境教育施設に関する研究(その3)H.Gardnerによる有効性の主張の検討及びポートフォリオ導入の可能性 戸田敏(埼玉大学大学院教育学研究科)・石田康幸(埼玉大学教育学部)	<b>2B0945</b> 大和市体験的環境学習推進事業結果報告－事業の推進におけるNPOの役割と評価－ 秋山友志・渡辺敦(NPO法人かながわ環境教育研究会)・日置之光(NPO法人タセコイアの森の仲間たち)・大和市環境部環境総務課	<b>2C0945</b> 宮城県内における水辺観察活動の10年と今後の展開 山田一裕(東北大院・工)・小島淳子・篠原富雄(みやぎ生協)
10:00	<b>ZA1000</b> ドイツと日本の高校生の環境意識の違いについて 金戸悠輔・石井早苗・土田麻子・塩瀬治(自由の森学園)・高木英理子(満部進也)・鳥取環境大学)・安野真理子・田中朝子(光光学)	<b>2B1000</b> 学校教育と環境に関連する行政・施設・企業との連携システム構築について 藤岡達也(大阪府教育センター)	<b>2C1000</b> パックテストによる酸性雨調査活動が市民の環境意識・環境配慮行動に及ぼす効果 田中美恵子(東北エコライフ研究会)・篠原富雄・細野加代子(みやぎ生協)・原宏(國立保健医療科学院)・水田恵三・北條祥子(尚絅短大)
10:15	<b>ZA1015</b> 日本における環境教育成立過程の背景とその環境問題と社会動向 小川 潔(東京学芸大学)	<b>2B1015</b> 「資源・エネルギー・環境」に関する総合的学習の実証的研究(その10)－高等学校における実践分析－ 井元りえ(山梨大学)・妹尾理子(東京学芸大学)・内野紀子(山梨大学)・武田清美(文化女子大学附属鷺並中・高等学校)	<b>2C1015</b> 琵琶湖の富栄養化を題材とした環境学習プログラムの開発と実践 桒原亞紀・川嶋宗繼(滋賀大学)・川崎陸男(栗東市立葉山中学校)
10:30	<b>ZA1030</b> 日中における持続可能な社会のための環境教育に関する研究 小澤紀美子・小川 濔(東京学芸大学)・樋口利彦・原子栄一郎(東京学芸大学附属環境教育実践施設)・森茂岳雄(中央大学)	<b>2B1030</b> 環境家計簿と組み合わせた地球温暖化問題教育ソフトの開発とそのねらい 小林章司・南隆昭(財)みやぎ環境とらし・ネットワーク)・三浦秀一(東北芸術工科大)・北條祥子(尚絅女学院短期大)	<b>2C1030</b> 河川の外来種と在来種 熊澤峻子(日本環境学会会員)・熊澤貴子(WWFJ会員)
10:45	<b>ZA1045</b> 日本・韓国・中国における環境教育比較(1) 高橋正弘(財団法人地球環境戦略研究機関)・阿部治(立教大学)	<b>2B1045</b> 地球温暖化防止活動における地域NGOの役割～MELON・ストップ温暖化センターみやぎの取り組み～ 南 隆昭(ストップ温暖化センター事務局員・財)みやぎ・環境とらし・ネットワーク)・北條祥子(ストップ温暖化センター長・尚絅女学院短期大学)	<b>2C1045</b> 大学生を中心としたパートナーシップによる地域の水辺環境改善の実践 小堀洋美(武蔵工業大学環境情報学部)・牧野優子・市村和人・萩原朋子・高砂子昌久(武蔵工業大学工学部)
11:00	<b>ZA1100</b> グローバルとローカル 西元和夫(龍谷大学)	<b>2B1100</b> 医療従事者の医療廃棄物に対する関心 松下由美子(和歌山県立医科大学看護短期大学部)	<b>2C1100</b> 河川に出現する繊毛虫類を用いた環境教育 Abdurahman・村松隆・見上一幸(宮城教育大学環境教育実践研究センター)
11:15	<b>ZA1115</b> 台湾における環境教育政策(5) 萩原 豪(学習院大学大学院政治学研究科)	<b>2B1115</b> シックスクール問題に関する予備調査結果 高田美紀・吉野博・瀧沢のりえ(東北大学大学院工学研究科)・角田和彦(坂総合病院小児科)・北條祥子(尚絅女子短期大)	<b>2C1115</b> 環境レポート展開催の実践－神奈川県の自然・生きものたちの写真展－ 小佐野貴謙・池見英記・山岡創・向後裕司・笠間慎太郎(鶴見大学生物学部)・小房道生・西川純雄・佐々木史江(鶴見大学生物学部)
11:30	<b>ZA1130</b> フィリピン・パラワン州における小学生の環境意識 今井智美・新川加奈子(神戸海星女子学院大学)・倉重加代(鹿児島女子短大)	<b>2B1130</b> 環境教育・学習プランの策定について 村山 隼(仙台市環境局環境部環境都市推進課)	<b>2C1130</b> 小笠原の子どもたちの動植物に関する知識 文野洋(東京都立大学)・尾見康博(山梨大学)・可知直毅(東京都立大学)
11:45	<b>ZA1145</b> 環境教育と消費者教育の連接～「持続可能な消費のための教育」に関する国際的動向(2) 松葉口玲子(鳴門教育大学)	<b>オーバービュー</b> 持続可能な社会に向けての環境教育 小澤紀美子(東京学芸大学)	<b>2C1145</b> 尺岳川エコパーク(第2報)環境教育の場としてのビオトープ構想 小堀進・佐藤雄星(近畿大学大学院)・坂本栄治(近畿大学九州工学部)
12:00	<b>ZA1200</b> 「一日一善日誌(環境によいこと)」－広島工業大学の場合－ 田羅征伸(広島工業大学)		<b>2C1200</b> 自然保護教育のための北海道野生植物の希少種リスト 谷口弘一(國學院大學栢木短期大学)・勝見允行(国際基督教大学)

## 一般講演プログラム

26日 午前	D会場(227室) <b>総合学習</b>	E会場(231室) <b>自然系実践</b>	F会場(232室) <b>教材開発・カリキュラム</b>
9:00	<b>2D0900</b> 学校週5日制に対応した自治会とPTAとの連携について 笹谷康之(立命館大学)	<b>2E0900</b> 地域づくりにおける環境学習の役割～沖縄県読谷村の海浜・海域保全の実践より～ 小栗有子(東京農工大学大学院)	<b>2F0900</b> 都市空間と環境教育の実践空間づくり 松山正將・花渕健一・菊地清文・佐伯吉勝(東北工業大学)
9:15	<b>2D0915</b> 環境教育における体験的活動の意義・役割 -「総合的な学習の時間」とワークショップ的授業の可能性- 田中敏久(学校教育ネットワーク・東京都公立小学校)	<b>2E0915</b> 地域の自然を取り入れた授業により、中学生の環境に対する意識はどう変化したか-理 科を中心としたアクションリサーチによる授業実践研究- 高城英子(松戸市立新松戸北中学校・東京学芸大学大学院)・原子栄一郎(東京学芸大学)	<b>2F0915</b> インターネットGISを用いた星空環境の教材化 長島康雄(仙台市天文台)・成田忠雄(仙台市教育センター)
9:30	<b>2D0930</b> 総合的学習を支援するパッケージプログラム～プロジェクトワイルドの指導者養成の実 践事例からー 利森 美文(森環境教育事務所)	<b>2E0930</b> 環境教育プログラムの基礎的研究ー里山の 教材化を通してー 藤田忠弘(茨城大学大学院)・大辻永・利 安義雄(茨城大学)	<b>2F0930</b> 「資源・エネルギー」を題材とした「総合的な 学習の時間」カリキュラム用教材の開発 麻生雅美・田中達郎・森田浩司(東京電力)・伊原浩昭(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)・山下宏文(京都教育大学)
9:45	<b>2D0945</b> 教材園の教育的な効果 山根一晃(鎌倉女子大学短期大学部)	<b>2E0945</b> 環境教育といぐねの学校 加藤良樹・北川長利・小金沢孝昭(宮城教育 大学)	<b>2F0945</b> 「資源・エネルギー・環境」に関する総合的 学習の実証的研究(その8)ー小学校低学年遊びの中でエネ ルギーを見つけよう、を例にー 野口芳江(さいたま市立大宮西小学校)・鷹野由希子(さいたま市立大宮小 学校)・中島美恵子(高岡市立定塚小学校)・佐島群巳(帝国短期大学)
10:00	<b>2D1000</b> 総合的な学習と食・農業体験学習の視点 小金沢孝昭(宮城教育大学)	<b>2E1000</b> 長野県蓼科保養学園における保養と学習 の取り組み 上原 嶽(東海女子大学)	<b>2F1000</b> 学校設定科目「環境の世纪へ」実践報告 地主 修(宮城県古川女子高等学校)
10:15	<b>2D1015</b> 学校と施設の連携を求めて～昨年のポス ター発表の分析から～ 小杉慶子(横浜雙葉中学高等学校)・尾崎理恵((財)日本 野鳥の会サンクチュアリ室)	<b>2E1015</b> 米国国立公園局におけるパークレンジャー 養成に関する報告～解説業務の側面から ~ 君島俊克(千葉大学大学院)	<b>2F1015</b> 幼稚園、保育所の保育における幼児期環境 教育の要素 田尻由美子(精華女子短期大学)
10:30	<b>2D1030</b> 『フランドン農学校の豚』が問いかけるものー BSE(牛海绵状脑症)問題から生命を食生活を考えるー 篠崎恵昭(埼玉大学教育)・石川亜紀(子どもの目)・西城 戸司(埼玉大学理学)	<b>2E1030</b> インターネットを活用した環境情報教育ー野 外観測での携帯端末の利用ー 新井正一・池田勝枝(目白大学)	<b>2F1030</b> 「グローバル日本 生徒の集い」の意義と発展 方向 辻忠恭(東京学芸大学環境教育実践施設・立正大学大学院地球環境科学 研究科)・植口利彦(東京学芸大学環境教育実践施設)
10:45	<b>2D1045</b> 音と香りのグラデーションと生命の循環ー地 元小学生に対して行った自然教育事例ー 藤田 均(青森大学大学院環境科学研究科)	<b>2E1045</b> 登山運動と自律神経機能 山仲勇二郎(山梨大学大学院)・永吉英 紀(国土館大学)	<b>2F1045</b> 小学校における大和川を活用した環境教育 の展開状況ー奈良県・大阪府の教員対象アンケート調 査の結果を通してー 岩本廣美(奈良教育大)・渋谷友和(東大阪市立織手南小)・月出修司(奈良 教育大・院)
11:00	<b>2D1100</b> 「資源・エネルギー・環境」に関する総合的 学習の実証的研究(その9) 山下宏文(京都教育大学)・鈴木真(練馬区立石神井小学校)・田中明(川崎 市立田島小学校)・石原淳(文京区立金富小学校)・小宮豊(東京都大田区立羽 田小学校)・富岡立行(社会システム研究所)	<b>2E1100</b> 自然教室の建築計画と施設利用ー日本野鳥 の会 鳥と緑の国際センターにおける実践報告ー 岩永幸呼(筑波大学大学院)・岩永至功 (時空遊園)・下重喜代(日本野鳥の会)	<b>2F1100</b> 水文化教育の構想と実践ー日本の歴史と 水文化ー 立花禎唯(京都教育大学大学院、高槻市立 松原小学校)
11:15	<b>2D1115</b> ムササビに学ぶー体験学習と寺院の活用 についてー 矢島道彦(鶴見大学短期大学部)	<b>2E1115</b> エコツーリズムと環境教育 北川光雄(静岡英和短大)	<b>2F1115</b> 大学生を対象とした環境教育セミナーの試 みーグループ別学習法を中心とした実践報告ー 川南公代・土屋清・勝田真人・岩井秀明(順天堂大学スポーツ健康科学部)・ 西田真哉(国立赤城青年の家)・細見修(群馬大学医学部)・谷口恵子(青森大 学院)
11:30	<b>2D1130</b> まちづくりへの参画を目指した総合的な学 習(その1)～とっておきの宝探しからウォー クラリーまで～ 瀧田健司(名古屋市立大曾根中学校)	<b>2E1130</b> 動物園における環境教育実践に向けたー 考察～場の形成・活用・展開論～ 高橋宏之(千葉市動物公園 / 東洋大学大学 院)	<b>2F1130</b> 大学生を対象とした環境教育セミナーの試 みー参加体験型学習法の自然に対する関心に及ぼす影 響ー 川南公代・土屋清・勝田真人・岩井秀明(順天堂大学スポーツ健康科学部)・ 西田真哉(国立赤城青年の家)
11:45	<b>2D1145</b> 実験を重視した「環境学」フィールドワークの 取組例 越野省三(奈良女子大学文学部附属中等 教育学校)	<b>オーバービュー</b> 自然学習について考える 山田卓三(名古屋芸術大学)	<b>2F1145</b> アースアートの可能性～美術科としての環 境教育へのアプローチ～ 鈴木 斎(福生市立福生第三中学校)
12:00	<b>2D1200</b> 環境教育・総合的な学習で既存のプログラ ム・カリキュラムを使用する問題点とその対 策ー「教育の環境化」の視点よりー 飯沼慶一(成城学園初等学校)		<b>2F1200</b> 渡良瀬川の泥(底質)の重金属(Cr, Cu, Cd, Pb)汚染について 杉浦公昭(東洋大学工学部)

### 一般講演プログラム

26日	A会場(223室) プログラム・カリキュラム	B会場(224室) 社会科学系	C会場(226室) 自然系実践
13:30	<b>2A1330</b> 新カリキュラムにおける「環境学」の再構築 中道真子(奈良女子大学文学部付属中等教育学校)	<b>2B1330</b> スラム街(フィリピン・マニラ首都圏ナボタス市)が学生を変えた! 村田諭美・秋山朋子・米光雅宣・下羽友衛(東京国際大学国際関係学部)	<b>2C1330</b> 地域の湿地を用いた環境教育の実践的研究 鈴木晃(田尻町立大貫小学校)
13:45	<b>2A1345</b> 教員養成学部における環境教育カリキュラム:信州大学教育学部での一例 渡辺隆一(信州大学教育学部)	<b>2B1345</b> 発信活動(国際NGO活動)が私たちを変える 富永貴秋・宮原光司・和栗亜沙美・下羽友衛(東京国際大学国際関係学部)	<b>2C1345</b> 土壤学習「土は生きている」カリキュラム開発とその教育実践 永川 元(神奈川県立初声高等学校)
14:00	<b>2A1400</b> アメリカのエコシステムマネジメントと「環境教育」—チエサピーク湾プログラムの事例をふまえてー 高山進(三重大生物資源学部)	<b>2B1400</b> サバ州・サラワク州におけるエコツーリズム 中端章博(財団法人地球環境戦略研究機関)・阿部治(立教大学)	<b>2C1400</b> 音にかかわる環境教育の実践的試み 加藤晶子(岩手大学教育学部)
14:15	<b>2A1415</b> 中国での参加型環境教育の研修と国際協力 小寺正明(日中環境教育協力会、環境・国際研究会)	<b>2B1415</b> 酸性雨問題に関する国際普及啓発事業の展開 岩田元一・佐藤二郎・ 山下研・河内綾子((財)日本環境衛生センター酸性雨研究センター)	<b>2C1415</b> 工学系学生への菌類を含む自然教育( ) 自然界に見るリサイクルの原型 安藤正信・高原光子(日本大学生産工学部)
14:30	<b>2A1430</b> アジア太平洋地域の高等教育段階における環境教育のデリバリシステムとeラーニングの果たす役割 佐藤真久(財)地球環境戦略研究機関(GES)	<b>2B1430</b> 環境教育におけるリスク問題の取り扱いについての一考察 石川聰子(大阪教育大学)	<b>オーバービュー</b> これからの環境教育 鈴木善次(日本環境教育学会会長)
14:45	<b>2A1445</b> GEMS(ジェムズ)の環境教育プログラム 古川和(ティーチングキッズ代表・ジャパンGEMSセンター事務局長)・飯沼慶一(成城学園初等学校)	<b>2B1445</b> 論争中の環境問題を学校教育で扱う 塙川哲雄(大阪府立北千里高等学校)	
15:00			
15:15		<b>関連小集会</b> (10頁参照)	<b>関連小集会</b> (10頁参照)
15:30			
15:45			
16:00			
16:15	<b>関連小集会</b> (10頁参照)		

## ポスター発表

ポスター会場(211室)	立会発表時間 26日12:30~13:30	生きもの(トンボ)調査への 参加募集!
<b>P-01</b> 里山保全活動の環境学習機能 倉本宣(明治大学農学部)・宮久保知和子(明治大学大学院農学研究科)・永井敬子(明治大学農学部)	<b>P-12</b> 森林環境教育の場としての学校林 奥山洋一郎(東京大学大学院)	あなたも赤トンボの調査に参加しませんか? 今回の大会では、サイドイベントとして、赤トンボの調査を行います。トンボは身近な田んぼで生まれます。このうちウスバキトンボは熱帯亜熱帯から北に移動し、アキアカネは平地と山岳地の間を垂直移動することから、このようすを、全国の協力者とともに追跡し、インターネットを通じて全国地図に入力するというものです。
<b>P-02</b> みどり子どもエコクラブ事例紹介とその評価 前田洋枝(名古屋大学大学院環境学研究科)	<b>P-13</b> 河川水質調査による環境学習の進め方-広瀬川水質調査を事例として- 森田衣子(仙台商工団地情報処理センター)・佐藤優花里・村松隆(宮城教育大学環境教育実践研究センター)	調査方法の実際は、環境計測実習講座の中の「インターネットを使った生きもの調査」でも行います。 5月中旬から入力できる予定です。以下のアドレスにアクセスしてみてください。 <a href="http://map.edb.miyakyo-u.ac.jp/akatombo/">http://map.edb.miyakyo-u.ac.jp/akatombo/</a>
<b>P-03</b> 総合的な学習「たねのひみつ」の実践 津田美子(名古屋市立正木小学校)・津田智(岐阜大学流域圏科学研究センター)	<b>P-14</b> 「プロジェクトアドベンチャー」の学校教育活動への導入事例～「みやぎアドベンチャープログラム」による学びの環境づくり～ 石川国広(東京工業大学大学院社会理工学研究科)・多田聰(明治大学法学部)	岩渕成紀(宮城県田尻高校) 鶴川義弘(宮城教育大学環境教育実践研究センター)
<b>P-04</b> 環境学習をベースにした国際交流・理解の可能性(創造性教育手法の応用による環境学習の支援) 佐藤慎也(東北文化学園大学)・細田洋子・岡田美恵子(仙台市)・田代久美(宮城大学)・馬場たまき(尚絅女学院短期大学)・米倉雅真(東北文化学園専門学校)	<b>P-15</b> パートナーシップによる環境学習センターの活動 高月紘(京都大学)・戸田耿介(京のエコロジーセンター)・松本育生(環境市民)・山崎勝重(京都市)	
<b>P-05</b> 学校教育以外の環境学習への参加の実態 西山道恵(大阪外国语大学大学院)	<b>P-16</b> 市民が参加した里山の自然環境調査とその成果-埼玉県飯能市の例- 内田康夫(駿河台大学経済学部)・太田和夫(NACS-J自然観察指導員)・天覧山・多峯主山の自然を守る会調査委員会	
<b>P-06</b> 自然体験キャンプが児童の生体リズムに及ぼす影響 -心電図R-R間隔変動の周波数領域解析による検討- 永吉英記(国士館大学)・川村協平(山梨大学)・山田亮・山仲勇二郎・中村織江(山梨大学大学院)	<b>P-17</b> 光環境工学分野における環境教育のあり方 村松隆雄(武蔵野女子大学人間関係学部)・高野雅彦(株式会社環境管理センター)・小野裕子(オノ・ユーロ環境教育研究所)	
<b>P-07</b> 携帯型空気吸引ポンプによるSPMの測定 岸香織(東京学芸大学大学院)・佐藤豊・中島利誠・中山榮子(昭和女子大学)	<b>P-18</b> 環境教育教材「麦のカルタ」の開発 林 浩二・嵯峨創平(都市環境教育研究会)	
<b>P-08</b> アンネのバラ・友の会埼玉<平和・環境・教育・人権の地域ネットワーク> 西城戸司(埼玉大・理)・榎本好子(円造形教室)・篠崎恵昭(埼玉大・教育)	<b>P-19</b> ホームページを利用した森林環境教育の可能性 立石凱義(社団法人国土緑化推進機構)・吉田紀子・大國徳子(株式会社大伸社)	
<b>P-09</b> 安全で効果的な環境教育プログラムの開発 -学童保育所における実践的研究- 斎藤潔(桐蔭横浜大学工学部)・佐藤敬(日本昆虫協会)・寺田輝明((株)寺田)・高橋裕子(松戸市相模台学童保育所)・小出真右(松戸市相模台学童保育所父母会長)・村松伸弘・衣袋祥子(千葉県環境財団)	<b>P-20</b> 動物園での学びを支援する教材開発-動物の観察から環境学習へ- 渡邊重義・能田御鈴・篠原恵美(愛媛大学教育学部)	
<b>P-10</b> 博物館活動における水塚を用いた地域学習からの展開 江口誠一・白井豊・藤原道郎(千葉県立中央博物館)	<b>P-21</b> 野外教育の場として大学演習林が果たす役割-愛媛大学演習林の取り組みをもとに- 小林修・鶴見武道・藤久正文・尾上清利・河野修一(愛媛大学農学部附属演習林・森林教育)	
<b>P-11</b> 環境エネルギー館が考えるワークシート 目後芳花・岩田郷子(東京ガス(株)環境エネルギー館)		

### 関連小集会等プログラム

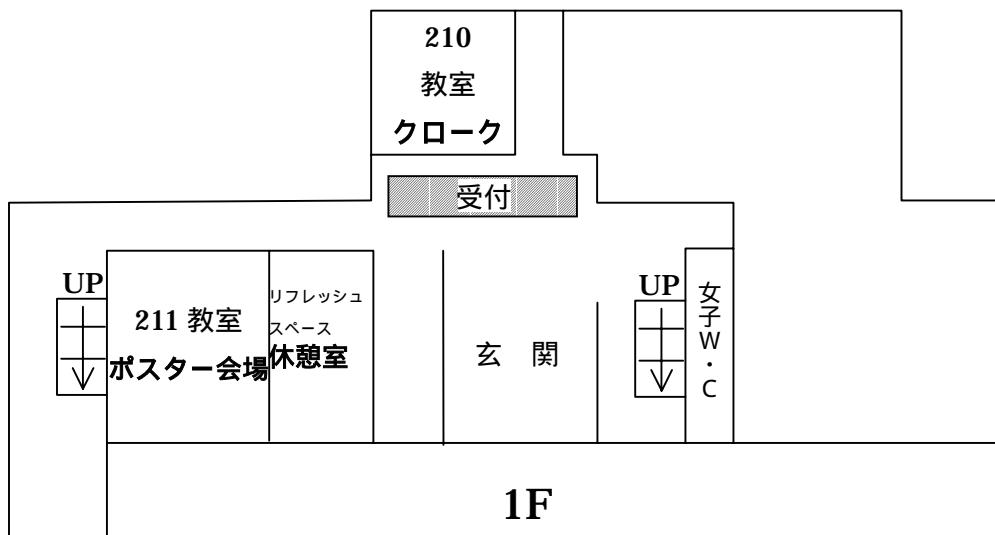
26日	A会場(223室)	B会場(224室)	C会場(226室)
13:00			
14:00	口頭発表	口頭発表	口頭発表
15:00			
16:00	<b>16:15</b> 幼児期における環境教育 近藤正樹(白梅短期大学)・大澤力(東京家政大学)	<b>15:15</b> ミニシンポジウム 山口洋典	<b>15:15</b> 批判的環境教育 石川聰子(大阪教育大学)・塙川哲雄(大阪府立北千里高等学校)・原子栄一郎(東京学芸大学)
17:00			
18:00			

26日	D会場(227室)	E会場(231室)	F会場(232室)
13:00	<b>13:00</b> 食と農をめぐる環境教育 阿部道彦(農山漁村文化協会)・原田智代(京都精華大学)・本庄 真(奈良県香芝市立真美ヶ丘東小学校)		
14:00			
15:00			
16:00		<b>15:00</b> 環境教育推進のための教員研修システムとプログラム開発 —関連地域におけるパートナーシップの構築を踏まえて— 藤岡達也(大阪府教育センター)	
17:00			
18:00			

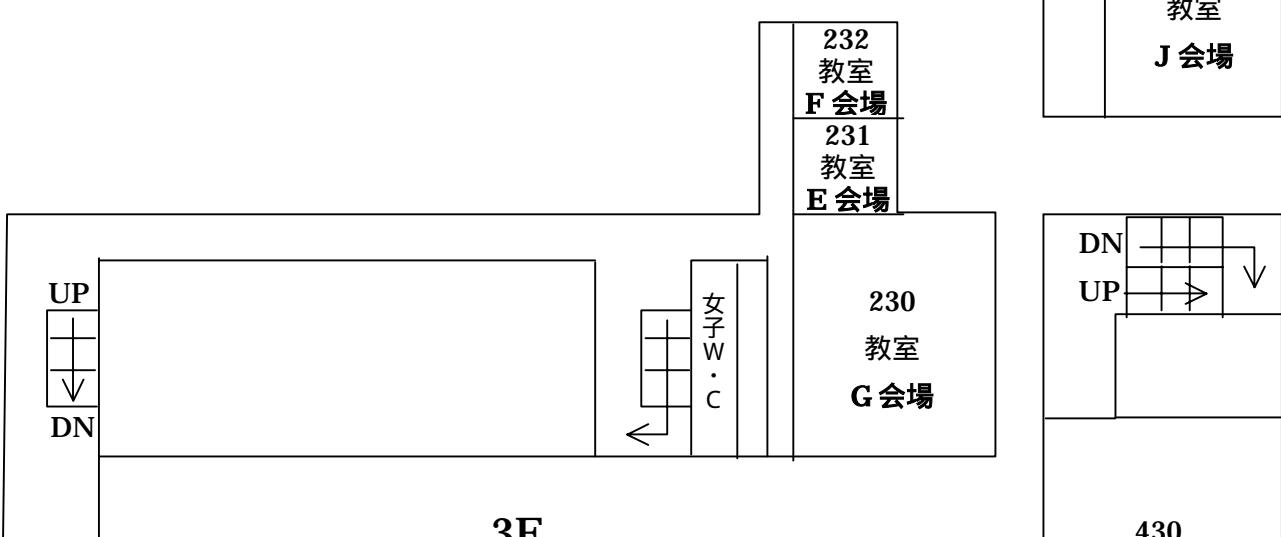
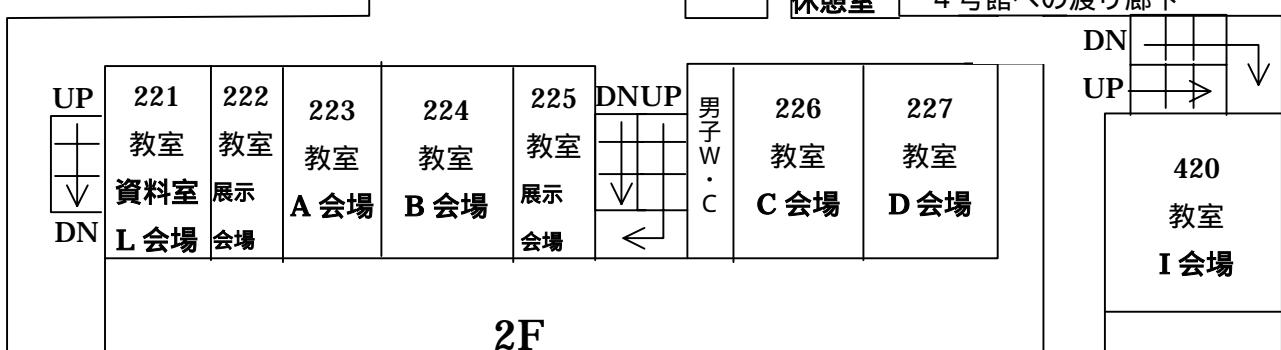
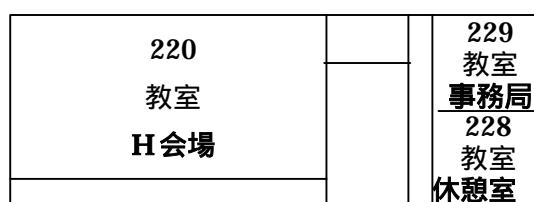
26日	G会場(230室)	H会場(220室)	I会場(420室)
13:00			
14:00			
15:00	<b>15:00</b> ネイチャーセンターのワーキングネット 小林 賢	<b>15:00</b> 「総合的な学習の時間」と体験的活動 -教育改革と学校環境教育の可能性- 田中敏久(学校教育ネットワーク・東京都公立小学校)	<b>14:30</b> 大学における環境教育の現段階 比屋根 哲(岩手大学)
16:00			
17:00			
18:00			

26日	J会場(421室)	K会場(430室)	L会場(221室)
13:00			資料室
14:00			
15:00	<b>15:00</b> 動物園環境教育会議 「動物園・水族館での環境教育の可能性を考える(3) ~野生動物保全施設に向けた連携づくり~ 高橋宏之(千葉市動物公園 / 東洋大学大学院)	<b>15:00</b> アジア太平洋地域における環境教育戦略を考える -IGES環境教育プロジェクトの活動を通して- 中端章博(財団法人地球環境戦略研究機関)	<b>15:00</b> 環境教育をめぐる国際交流 小澤紀美子(東京学芸大学)
16:00			
17:00			
18:00			

## 2号館



## 4号館



## 会場（宮城教育大学）位置図



### 交通機関

<バスのご案内>

仙台駅西口バスプールの9番乗場から、市営バス  
「宮教大」「青葉台」行きに乗車し、「宮教大前」で下車（所要時間 約20分 片道¥220）

朝バス時刻（仙台駅前発）

土曜日 8時：05 15 25 35 50 9時：03 23 43

日曜日 8時：15 45（2便に増便） 9時：03 23 43

懇親会会場へのバス（宮教大前発）

土曜日 17時：09 18 38 18時：08 38

（会場には駐車場もございます。宮城教育大学学生駐車場、宮城県教育研修センター駐車場）

## 設配置図



大会に関する情報は、下記のホームページに掲載します。

<http://homepage2.nifty.com/meen/ev-myg.htm>

### 大会に関する問い合わせ

大会事務局 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 宮城教育大学 EEC

日本環境教育学会第13回大会事務局

電話 022-214-3545 ファックス 022-211-5594

E-mail: [mikami@staff.miakyo-u.ac.jp](mailto:mikami@staff.miakyo-u.ac.jp)